

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
解剖生理学総論	1	1	前期	看護師	専任教員	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, レポート			教科書・参考資料	系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① /医学書院	
概要	人体の構造と機能を学び、人間のからだの仕組みを理解する。					
目標	1.人間のからだの名称が言える 2.人間のからだの仕組みについて理解できる 3.ホメオスタシスについて理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	1章 A「構造からみた人体」			☆1章Cの内容は、生物学で受講		
2	1章 B「人体のさまざまな器官」					
3	5章 C「体液の調節」					
4	6章 A「自律神経による調節」					
	B「内分泌系による調節」			☆6章C・E②内容は、解剖生理学各論Ⅱ・Ⅲで受講		
5	6章 D「ホルモン分泌の調節」					
6						
7	9章 C「体温とその調節」					
8	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
解剖生理学各論Ⅰ (呼吸・循環・造血機能)	1	1	前期	看護師	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲, レポート			教科書・ 参考資料	系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① /医学書院	
概要	人体の構造と機能を日常生活の視点から捉え、構造と機能に関する知識が人間の健康障害や病態生理、看護技術とどのように関連しているか理解する。					
目標	1. 人間の生命活動(呼吸する、循環を保つ)に関する構造を理解できる 2. 人間の生命活動(呼吸する、循環を保つ)に関する機能を理解できる 3. 呼吸と血液のはたらきを理解できる 4. 血液の循環とその調節を理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	4章「血液の循環とその調節」		A 循環器系の構成 B 心臓の構造			
2			C 心臓の拍出機能 - 心臓の興奮とその伝播 心電図			
3			心電図			
4			心臓の収縮 心周期			
5			D 末梢循環器系の構造 - 血管の構造 肺循環の血管 体循環の動脈 体循環の静脈			
6			E 血液の循環の調節 - 血圧 血液の循環 血圧・血流量の調節 微小循環 循環器系の病態生理			
7			F リンパとリンパ管			
8	3章「呼吸と血液のはたらき」		A 呼吸器の構造 - 呼吸器の構成 上気道 下気道と肺 胸膜・縦郭			
9			B 呼吸 - 内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動 呼吸気量			
10			ガス交換とガス運搬 肺の循環と血流			
11			呼吸運動の調節 呼吸器系の病態生理			
12			C 血液 - 血液の組成と機能 赤血球			
13			白血球 血小板 血液の凝固 血液型			
14	9章「身体機能の防御と適応」		非特異的防御機構		特異的防御機構-免疫 生体防御の関連臓器	
15	終講試験					
留意事項						
講義の前に教科書の該当部分を通読、予習・復習により記憶の定着をはかるようにしてください。 おおむね毎回講義時に復習と発展問題を配布しますので、自己学習に役立ててください。						

授業科目		単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
					職種		
解剖生理学各論Ⅱ (栄養摂取・吸収機能、排泄機能)		1	1	前期	看護師・助産師	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)					授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない					講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験,学修意欲,レポート				教科書・参考資料	系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 成人看護学⑤消化器⑧腎・泌尿器⑨女性生殖器 ⑫皮膚⑬歯科・口腔 /医学書院	
概要	人体の構造と機能を日常生活の視点から捉え、構造と機能に関する知識が人間の健康障害や病態生理、看護技術とどのように関連しているか理解する。						
目標	1. 人間の日常生活「食べる」(栄養の消化と吸収)に関する構造を理解できる 2. 人間の日常生活「食べる」(栄養の消化と吸収)に関する機能を理解できる 3. 人間の日常生活「排泄する」に関する構造を理解できる 4. 人間の日常生活「排泄する」に関する機能を理解できる						
回数	授業内容・計画						
1	2章 「栄養の消化と吸収」		A 口・咽頭・食道の構造と機能				
2			B 腹部消化管の機能と構造				
3							
4			C 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能				
5							
6			D 腹膜				
7	5章 「体液の調節と尿の生成」						
8			A 腎臓				
9			B 排尿路				
10	10章 「生殖・発生と老化のしくみ」						
11			A 男性生殖器				
12			B 女性生殖器				
13							
14			C 受精と胎児の発生				
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
解剖生理学各論Ⅲ (運動・神経・感覚機能)	1	1	前期	看護師	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験(中間と最終)			教科書・ 参考資料	系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 成人看護学⑦脳・神経⑩運動器⑬眼⑭耳鼻咽喉 /医学書院	
概要	人体の構造と機能を日常生活の視点、患者の観察の視点から捉え、構造と機能に関する知識が、人間の健康障害や病態生理、看護技術とどのように関連しているか理解する。					
目標	1. 人間の日常生活「動く」に関する構造を理解できる 2. 人間の日常生活「動く」に関する機能を理解でき、患者の観察への使い方が理解できる 3. 人間の感覚機能、反応に関する構造を理解できる 4. 人間の感覚機能、反応に関する機能を理解でき、患者の観察への使い方が理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	1章 解剖生理学を学ぶ意義 基礎知識ー人体の部位、人体内部の腔所と膜、方向					
2	7章A・B・C 人体の骨格、骨の形態と構造、関節、関節可動域、良肢位、骨格筋の構造					
3	7章H 神経伝達から筋収縮、筋収縮の種類					
4	8章A・D・E・F 神経組織、神経系の構造と機能、上行伝導路、下行伝導路					
5	8章B・C 脊髄の構造と機能					
6	7章D・E・F・G 体幹・胸部・背部・腹部・上肢・下肢の骨格と筋、頭頸部の骨格と筋					
7						
8	7章 I 運動と代謝					
9	8章B・K 脳の構造・機能-脳幹・小脳・間脳 脳の統合機能					
10	8章C 大脳機能局在 脳神経					
11	8章C 脳神経					
12	8章G 眼の構造・機能					
13	8章H 耳の構造・聴覚					
14	8章J 痛み					
	9章A 皮膚の構造と機能					
15	終講試験					
留意事項						